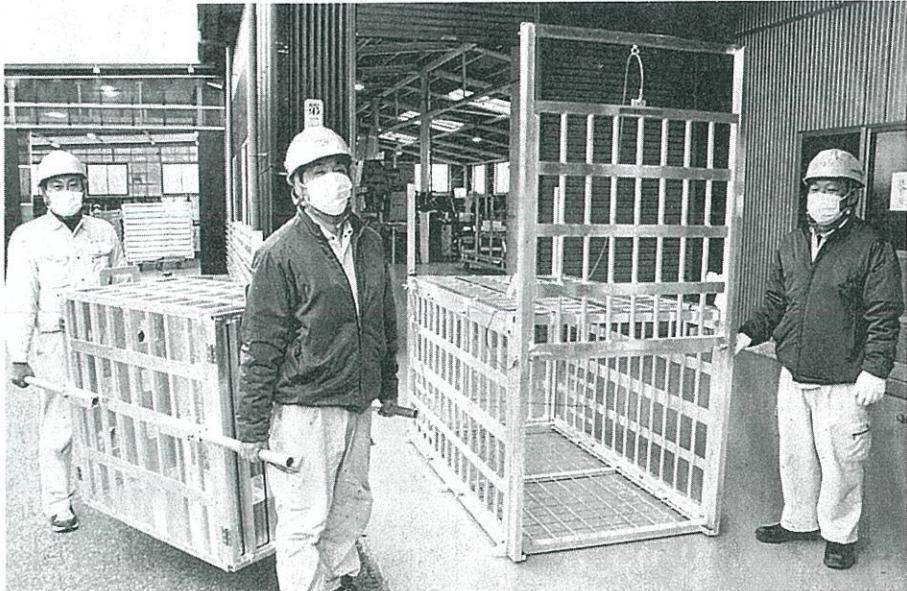


# 設置容易 アルミ製箱形わな



箱形わな（右）と獣を運ぶ搬送箱＝白子町の工場で

製造にあたっては、

同社は工場などの機械設備の製造が主力だが、新規分野への進出を検討する中で地域の課題となっている有害獣の駆除に目を付けた。警備会社「ALS OK千葉」が2020年、茂原市内に野生鳥獣の肉加工施設を開設したことを見たところをきっかけに、同社の協力を得ながら1年がかりで開発した。

**茂原・金属加工会社**

県南部で被害が拡大しているイノシシやシカ、キヨンなどの有害獣を生け捕りにする箱形わなを茂原市の金属加工会社「房総プランクト」が製作し販売を始めた。

わなは間口1.5m、高さ1.5m、奥行き1.8mのアルミニウム製で、中に置いた餌に誘われた獣が入ると入り口のゲートが降りて閉じ込める。6分割できる組み立て式のため移設作業が容易で、15分ほどで設置可能。「NORI（猪檻）」と命名した。生け捕りした獣を移して運ぶ搬送箱も製品化した。県内で一般的に使われている箱形わなは地域の鉄工所などが自作する鉄製の一体型が多い。重量があつて移設に手間がかかり、サビによる動作不良もあるという。

## 高い溶接技術生かし販売

東京パラリンピック競技のゴールボールのゴールや、プロ野球チー

ジなどのアルミ製器具の製造で培った高い溶接技術が生かされた。

同社の担当者は「イノシシ被害に悩まされている農家の話をよく

聞く。体力のない高齢者が容易に仕掛けられるとわなにした」と話す。

で、すでに茂原市など自治体に納入されている。【金沢衛】

1基25万円（税込み）